

# 国際松濤館

## 金澤伸明館長に聞きました

2020年東京オリンピックに空手追加の動きがありますが、オリンピックの世界人口を考えると、オリンピック種目に名前が上るのは当然だと思います。ただ、開催となると、ルールなどの面でもいろいろと検討しなければなりません。



金澤伸明館長

空手には「武道」と「スポーツ」の両面があります。スポーツと言うのは発展であり遠心的（えんしんてき）なものです。それに対して武道は自分自身を鍛えるという求心的（きゅうしんてき）なものでした。そのどちらかがいいというものではなく、その陰と陽のバランスが大切で、どちらか一方が欠けるといことがあってはいけません。スポーツというのは競技であって、その過程で試合に勝つということが至上目標なのです。

武道とは、心を鍛錬するものであって、その過程で強靱な肉体を作るものです。

我々は常日頃から押忍（おす）という言葉を使うのですが、単に試合に勝つのではなく、自分の限界を知り、自分自身に勝つということ、それこそが「押忍」だと思います。押忍というのは、「どんな苦難や壁にも挫けず、耐え忍ぶ」という忍耐の精神を意味したものです。

押忍の言葉どおり、自分を律するものでなくてはなりません。

こう考えてくると「武道」であり「スポーツ」であるため空手は他の球技などと違い、オリンピック参加種目となるためにはいくつかの課題をクリアしなければなりません。そして、それは「いずれ」とか「そのうち」と言っていることではありません。なにしろ東京オリンピックはもう5年後に迫っているのですから。

館長のお父様の金澤弘和宗家は世界134か国に数百万人の弟子を育てた偉大な方で――

宗家は83歳ですが、今でも海外へ指導に行っています。私が同行することが多いのですが、空港へ警察の車が迎えにきていて、先導してくれるなど、まさに国賓クラスの待遇を受けることもあります。それは、その国に尊重の念をもち人びとに誠実に接してきた宗家の空手が、それぞれの文化・宗教・人種に関係なく受け入れられたというのだと思います。

海外留学中の私の娘が「空手をやっているのならセンセイ・カナザワを知っているか」と聞かれ「私のおじいちゃんよ」と言つて驚かれ、娘も「うちのおじいちゃん、すごい人なんだ」とびびくりしたようです。私自身も海外へ出て、宗家の偉大さを知ったということがたくさんあります。

空手には「武道」と「スポーツ」の両面があります。

スポーツと言うのは発展であり遠心的（えんしんてき）なものです。それに対して武道は自分自身を鍛えるという求心的（きゅうしんてき）なものでした。

そのどちらかがいいというものでは

なく、その陰と陽のバランスが大切で、どちらか一方が欠けるといことがあってはいけません。

スポーツというのは競技であって、その過程で試合に勝つということが至上目標なのです。

館長は小さいときからこの道を目指していらっしやったのですか

私は3人兄弟の長男で、3人とも空手を習っていました。そのときは稽古に気が入らないことが多く、当時は一度「正座」と言われたら終わるまでやらされました。

宗家は国内、海外と飛びまわっていた家にいることは少なく、あるとき家に帰ってきた父親に弟が「いらっしやいおじさん」と声をかけていました。

中学、高校と好きなバスケットボールをやらせてもらい、高校の部活引退と同時に「大学で空手をやってみる気はないか」と父に聞かれました。

しばらく考えてから「やりませう」と決心したのですが、6年間も遠ざかっていたので、情けないほど技術が伴っていない。そこで必死に稽古しました。

そして世界大会や国体で優勝するほどになられたのですね。そういうとき宗家はなんと？

何もおっしやいません。褒められた

こともありません。何も言わないけれど、行動で生き方を見せてくれていました。日本空手協会の全国空手道選手権で、右手を複雑骨折していた宗家は、蹴り技だけで優勝したという逸話が伝えられています。

海外に多くの門弟がいらっしやいますが、女性も？

多いですよ。イランでは女性たちがベールで顔を隠して、肌が見えないように道着の下にシャツを着て。

単にスポーツとしてだけでなく、体と精神の一致を目指す空手の精神を学ぼうとしていることが分かります。

私も宗家が唱えてきた「調和」の精神を多くの人に伝えていきたいと考えています。

### プロフィール

かなざわ・のぶあき 1972年5月14日東京都生まれ。国際松濤館世界大会優勝、富山国体優勝、静岡国体優勝など。2014年4月国際松濤館館長に就任。習志野市香澄在住。香澄小学校体育館で月・木曜日指導。